

卓越大学院プログラム現地視察報告書(令和6年度)

卓越大学院プログラム委員会

機 関 名	東京科学大学(東京工業大学)	整 理 番 号	2 0 0 1
プログラム名 称	マルチスコープ・エネルギー卓越人材		
プログラム責任者	高田 潤一	プログラムコーディネーター	伊原 学
1. 進捗状況概要 ・エネルギー・情報コースによるプログラムの学位プログラム化をはじめとして、本プログラムの大学院制度への着陸を実現している。 ・国際フォーラムの開催により海外の研究機関や大学の学生・教員との密なコミュニケーションの機会を提供し、学生の実質的な国際交流と学生主体による国際共同研究の機会に繋げている。 ・プログラムの最終段階では、ベンチャー起業人材、企業における事業企画立案人材、大学研究機関における未来社会創造人材の人材輩出に向けた「アウトリーチ」と称されたステージゲートを設定し、修了生の質保証を確実に実施している。 ・履修生は、カリキュラムやサポート（履修・生活・キャリアパス）に対して非常に満足している。 ・一方で、非常に高度でかつ完成度の高いプログラムでありながら、応募者数は年度ごとに低迷しており、初年度を除き定員数を大幅に割る履修生数となっている。優秀な人材を獲得するための選抜の厳しさが一要因となっていることは確かであるが、応募者数の低迷も顕著であり、プログラムとしては質・量の双方の観点から応募者数・履修生数の低迷の原因解明と対策が急務であると思われる。 ・InfoSyEnergy 研究／教育コンソーシアムの会員数についても、初年度から令和3年度までは順調な増加がみられたが、令和4年度は大幅な参加機関の新規獲得数の目標未達がみられ、連携企業総数が目標を下回っている。このため、将来、特に自走に向けた財務基盤強化のみならず履修生の育成面での多様な産学連携機会の低迷が危惧される。応募者数対策とコンソーシアム企業数対策については、プログラムの質や完成度が非常に高いものであるだけに、今後の取組強化が大いに期待される。 【大学院教育全体の改革への取組状況】 ・本プログラムは学位プログラムであるエネルギー・情報コースの設置などの新たな仕組みの創設を通じて、本プログラムは大学院制度改革に大きく寄与している。 ・また、自大学における他の卓越大学院プログラムとの連携も行われており、卓越大学院プログラムとしての全学連携は順調に進展していると思われる。 ・一方で、卓越大学院プログラム以外の大学院プログラムの改革に向けた展開については、さらなる努力が必要であると思われる。フォーラムやシンポジウムなどのイベントベースの取組に加え、カリキュラム、特に専攻分野と情報（データサイエンス）・社会科学・倫理等のリベラルアーツの連携、に関してはさらなる展開と成果が期待される。 2. 意見（改善を要する点、実施した助言等） ・第一の課題は、応募者数の増員に向けた対応である。本プログラムはレベルも完成度も非常に高いものであり、より多くのマルチスコープ・エネルギー卓越人材を育成するために、応募者数と履修者数増強のための取組を強化していただきたい。履修生からは、経済支援以外の本プログラム参加のメリットに関する周知不足が指摘されて			

いたこともあり、周知方法等については、履修生からのヒアリングやアンケート等による意見やアイデア収集を踏まえ早期に対策することを期待する。今回、定員数の見直し（削減）が検討されているが、当初計画で予定されていた定員数への V 字型挽回を切に期待する。

- ・第二の課題は、コンソーシアム参加企業数の増加への対応である。令和 5 年度は、当初計画を大幅に下回り 1 機関となっている。これは財務基盤のみならず、履修生の産学連携機会を減じることにもつながる。優秀な人材を産学連携で育成するという取組についての理解を企業・外部機関にも促し、コンソーシアムメンバーの増加に向けた積極的な取組に期待する。

- ・加えて、上記取組については、プログラムコーディネーターだけでなく、履修生・学内外教員・スタッフ・大学幹部等、プログラムに携わるオールキャストで取り組んでいただきたい。